

令和元年度 アレルギー疾患都道府県拠点病 院モデル事業 報告

近畿大学病院アレルギーセンターの取り組み

近畿大学医学部附属病院アレルギーセンター

佐野 博幸、東田 有智

①アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応

	対応方法	時間	対応者	内容
近畿大学 病院	電話 メール	週5回	医師・看護師 など	<p>アレルギーセンターの窓口である患者支援センターからの連絡で、専任看護師または医師が電話相談を毎日9時から17時まで受け付けている。また、専用メールも開設している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. HP開設や講習会によってアレルギーセンターの存在を知った患者本人、家族からの電話相談が年間22件。 2. 医師からの電話による患者についての相談が年間32件。 3. 患者会や学校等からの講習会依頼の電話が年間18件。 4. メールによる相談はなかった。 <p>電話相談よりもアレルギーセンターの存在を知って紹介、あるいは直接受診する人が多かった。</p>

施設紹介

当アレルギーセンターは、呼吸器・アレルギー内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科が各診療科の壁を乗り越え力を合わせ、よりよい治療を皆様を提供いたします。

患者様サポート

電話相談

近畿大学病院 患者相談課
☎ 072-366-0221



②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施

	内容
近畿大学病院	<p>医療従事者のためのアレルギー研修会</p> <ol style="list-style-type: none">1. 堺市 2019年9月22日13:30~15:10 参加者30名 内容: 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー2. 岸和田市 2020年2月11日13:30~15:10 参加者25名 内容: 食物アレルギー、花粉症、皮膚アレルギー検査法 <p>上記モデル事業とは別に2019年9月8日に大阪府拠点病院事業として大阪狭山市 SAYAKAホールにてアレルギー疾患克服のための医療従事者講習会を開催し、50名の参加者があった。実技講習は非常に良かったとのアンケート結果があった。</p> <p>経口負荷試験や皮膚検査の依頼が増加した。</p>

プリック検査の実習風景



④アレルギー疾患に係る診断等支援

	内容
<p>近畿大学病院</p>	<p>新規事業</p> <ol style="list-style-type: none"> アレルギーセンターの広報誌を発行して、南大阪の各医療施設、保健所、役場などに配布した。 園や学校における食物アレルギー対策としてYouTubeを作成して、アレルギーセンターホームページからオンデマンドで視聴できるようにした。 <p>2019年度通院アレルギー患者(10,834人)と紹介数</p> <ol style="list-style-type: none"> 食物アレルギー 634人 気管支喘息 6,626人 アトピー性皮膚炎 2,986人 花粉症 584人 アレルギー性結膜炎 4人 経口食物負荷試験実施人数 217件 紹介患者数 1,260件

広報誌



オンデマンド
視聴

食物アレルギーを有する小児は増加しています。

日本全体がコロナ禍に見舞われ、このも連にも多くの制限が課されています。食物アレルギーは“食事”という日常にありふれたイベントに際して生じる健康上の問題です。そこで、コロナ禍における園や学校における食物アレルギー対策として、密にならず個人で食物アレルギーについて知識を得る動画を作成し、YouTubeで視聴可能いたしました。感染対策とアレルギー・アナフィラキシー対策、いずれも園や学校における重要な危機管理の課題がと存じます。この動画が、アレルギー・アナフィラキシー対策の一助となれば幸いです。

*動画 URL (YouTube) → <https://youtu.be/5BHxXnUSbms>

+QRコードから視聴いただく場合はこちら→

園や学校における食物アレルギー対策 2020